2009 年 4 月 14 日

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長　兼　COO　福島　保
（コード番号　9783　東証・大証第一部）

＜子どもの ICT 利用実態調査　速報＞

高校生、告白は携帯電話ではなく「直接話す」が6割
～ケータイ世代、大切な意思表示は対面で～

株式会社ベネッセコーポレーション（本社：岡山市）の社内シンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」では、2008 年 9 月～11 月に小学 4 年生から高校 2 年生の 8 学年の子ども 10,267 人を対象に、携帯電話やパソコンなどのいわゆる「ICT メディア」の利用実態や意識について、調査を実施しました。主な調査結果は次のとおりです。

1. 携帯電話の所有率は、小学生 3 割、中学生 5 割、高校生 9 割である。

●学年別では、中 3 生から高 1 生になる間で所有率が大きく増加する（中 3 生：55.2%→高 1 生 91.3%）。

2. 携帯電話の利用についての意識：子どもたちは「ケータイ」でいつも友だちとつながっている。

●携帯電話をもつ中高生は、「メールが来たらすぐに返事を出す」と回答したのは中学生で 71.3%、高校生では 62.3%であった。

●携帯電話の利用時に「友だちといるときは携帯電話に出ない」と気を配っているのは、携帯電話所有者のうち、中学生で 30.5%、高校生で 34.7%にとどまる。

●自分と一緒にいるときに、友だちが「届いたメールに返事を書きはじめる」ことが「いやではない」と感じるのは、中学生全体の 63.8%、高校生全体の 72.6%であった。

3. コミュニケーション手段の選択：大切な意思表示は、メールではなく「直接話す」が 6 割程度である。

●高校生全体でみると「友だちを遊びに誘う」場合の手段は「メールを送る」が半数以上であった。一方で、「直接話す」としたのは「好きな人に告白する」「相手に対する不満を伝える」で 6 割、「親に謝る」では 82.2%であった。

本調査からは、子どもたちが「ケータイ」でいつも友だちとつながっているものの、場面に応じてコミュニケーションの手段を使い分けている様子がうかびあがってきました。

子どもが携帯電話を利用するにあたっては、さまざまな問題への対応や対策を講じる必要があることはいうまでもありません。しかし携帯電話が中学生・高校生に広く普及している現状を踏まえると、むしろ「道具」としての適切な使い方を大人と子ども双方で考えていくと同時に、子どもたち自身が今後の情報社会を生きる力として、こうした機器の適切な使い方を自ら考え、身につけていく機会を提供していくことが重要と考えます。

■調査概要

調査時期	2008 年 9 月～11 月
調査方法	学校通しによる質問紙調査
調査対象	小学 4 年生から高校 2 年生　合計 10,267 人（有効回答数）
調査項目	パソコンの利用有無、パソコンの利用内容、携帯電話の所有有無、携帯電話の利用頻度、携帯電話の利用機能、携帯電話の利用で気にしていること、対面場面での携帯電話利用に対する意識、コミュニケーション手段の選択、科学技術観　など

■調査結果の概要

1. 携帯電話の所有率は、小学生３割、中学生５割、高校生９割（⇒速報版 p4　Ⅰ－①より作表）

Q. あなたは、携帯電話を持っていますか。

	小４生	小５生	小６生	中１生	中２生	中３生	高１生	高２生
学年別	29.0%	31.2%	31.6%	40.4%	49.0%	55.2%	91.3%	93.7%
学校段階別	30.6%			47.8%			92.3%	

※携帯電話の「所有率」は、「自分専用の携帯電話を持っている」＋「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」の%。

2. 携帯電話の利用についての意識：子どもたちは「ケータイ」でいつも友だちとつながっている。

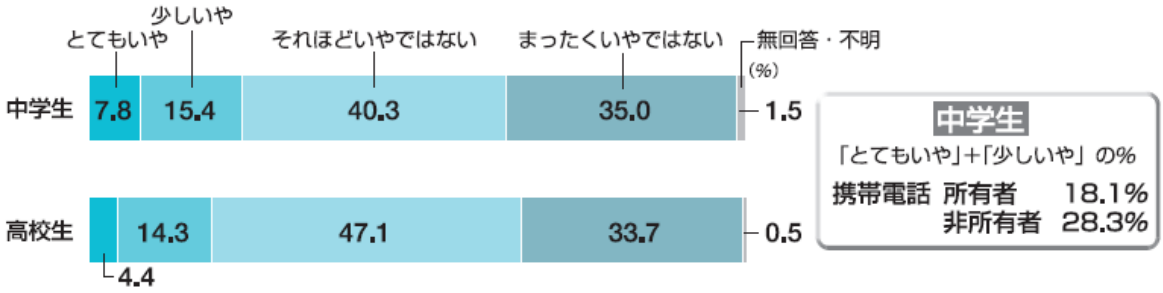
（1）　対面場面での携帯電話利用に対する意識　（⇒速報版 p12　Ⅲ－①）

自分と一緒にいるときに、友だちが「届いたメールに返事を書きはじめる」ことが「いや」という回答は、中学生で 34.5%、高校生で 26.8%。また、携帯電話の所有者のほうが非所有者よりもそうした状況に違和感を覚えないようである。

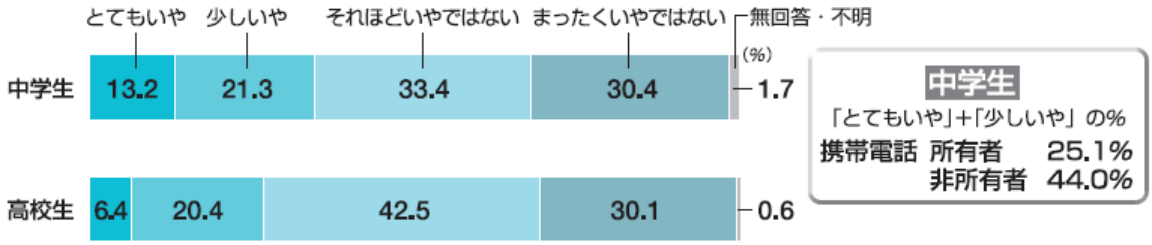
Q.　あなたと一緒にいるときに、友だちが次のようなことをしたら、あなたはどのように感じますか。

中学生全体・高校生全体

かかってきた電話に出る



届いたメールに返事を書きはじめる



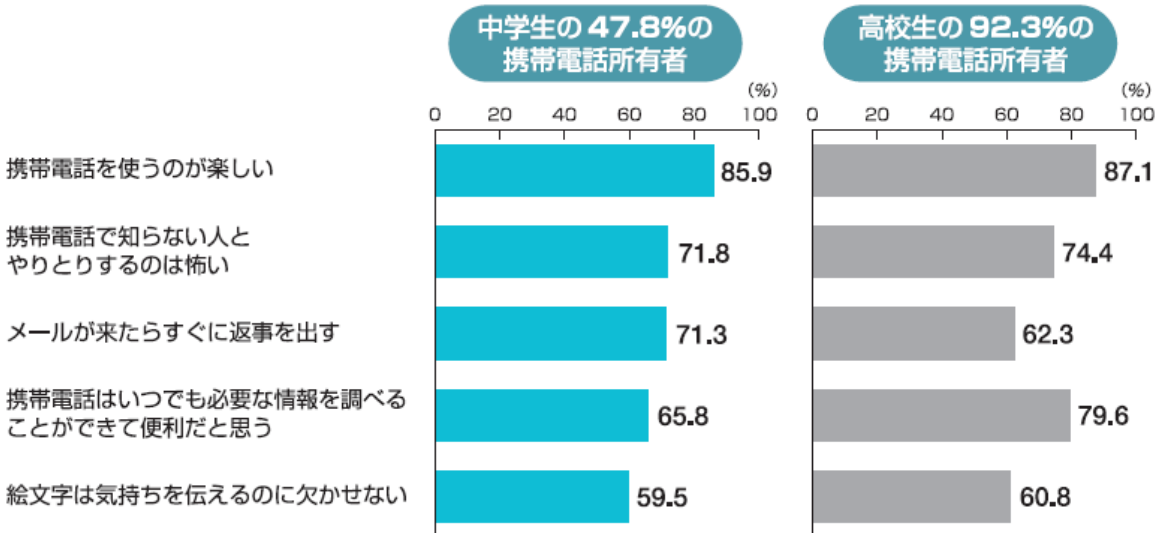
※携帯電話の「所有者」は、「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人。「非所有者」は「携帯電話を持っていない」と回答した人。この設問は、中・高校生のみにたずねた。

(2) 携帯電話の利用についての意識 (⇒速報版 p7 Ⅰ－④)

携帯電話を所有する中学生の 7 割、高校生の 6 割が、「メールが来たらすぐに返事を出す」と回答している。また、携帯電話を所有する中・高校生の 9 割が使うことを楽しく感じている一方で、7 割が知らない人とやりとりするのは怖いと感じている。

Q. 携帯電話について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

「とてもそう」＋「まあそう」の%



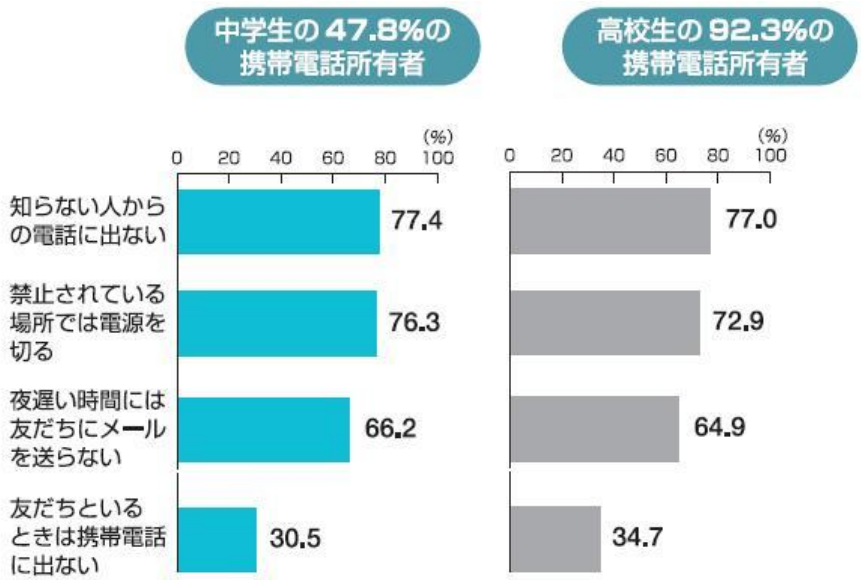
※「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。この設問は、中・高校生のみにたずねた。なお、ここでは「速報版」より上位５項目を抜粋して示した。

(3) 携帯電話の利用で気にしていること (⇒速報版 p8 Ⅰ－⑤)

携帯電話の利用時に「友だちといるときは携帯電話に出ない」ということを「気にしている」のは、携帯電話所有者のうち、中学生で 30.5%、高校生で 34.7%。一方、中・高校生とも所有者の 8 割弱が「知らない人からの電話に出ない」ことを気にしている。

Q. 携帯電話の使い方について、あなたは次のようなことをどれくらい気にしていますか。

「とても気にしている」＋「まあ気にしている」の%

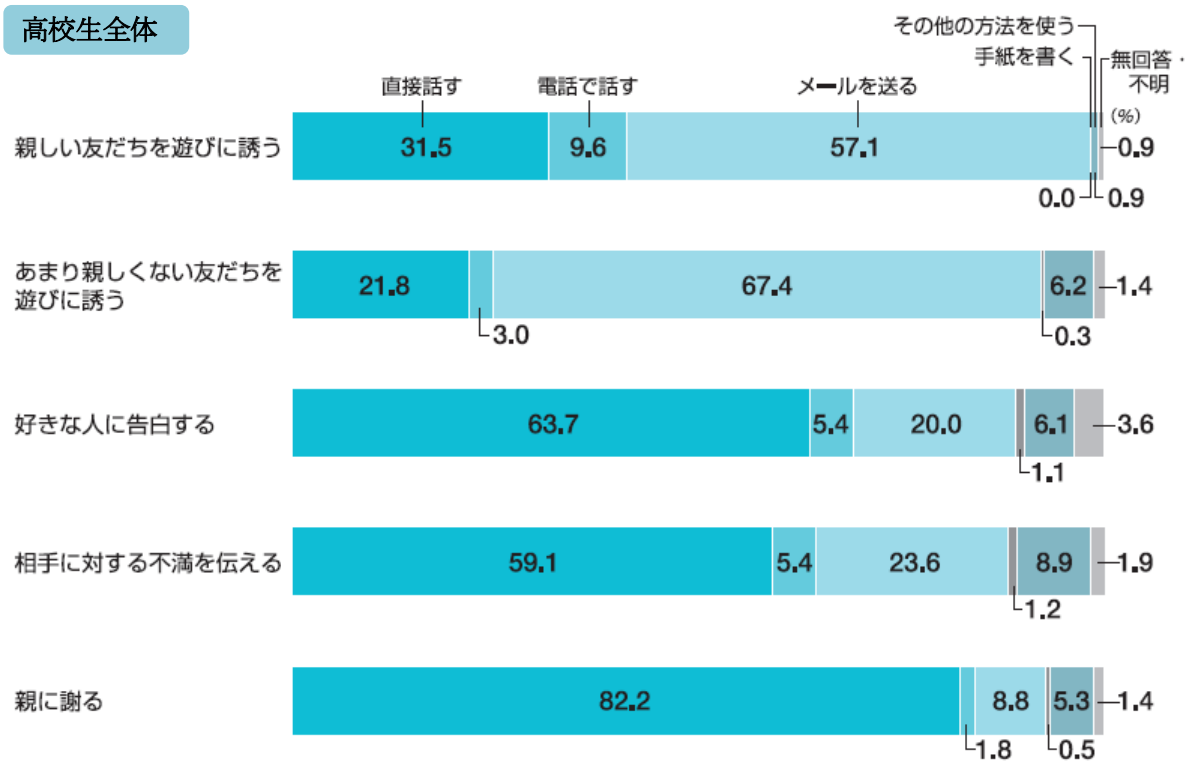


※「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。この設問は、中・高校生のみにたずねた。なお、ここでは「速報版」より4項目を抜粋して示した。

3. コミュニケーション手段の選択：大切な意思表示は、メールではなく「直接話す」が 6 割程度
（⇒速報版 p14　Ⅲ－③）

いくつかのコミュニケーション場面を設定して、もっともよく使うと思う方法をそれぞれ1つだけ選ばせた。高校生全体をみると「親しい友だちを遊びに誘う」では 57.1%、「あまり親しくない友だちを遊びに誘う」では 67.4%が「メールを送る」を選択した。一方、「好きな人に告白する」「相手に対する不満を伝える」といった場合には「直接話す」が 6 割程度であり、「親に謝る」場合は「直接話す」が 82.2%であった。友だちを遊びに誘う場合はメールを、自分の意思を伝える場合は直接話すというように、場面に応じてコミュニケーションの方法を使い分けていることがわかる。

Q. あなたは次のようなことをするとしたら、どのような方法を使うと思いますか（もっともよく使うと思う方法を1つだけ選択）。



※この設問は、中・高校生のみにたずねた。なお、ここでは高校生の結果のみ示した。

＜Benesse 教育研究開発センターの活動／Benesse 教育情報サイトでの情報提供について＞

- Benesse 教育研究開発センター（http://benesse.jp/berd/）では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。
  ⇒ 今回の「子どもの ICT 利用実態調査」の詳細もこちらのサイトでご覧いただけます。
- Benesse 教育情報サイト（http://benesse.jp/）では、ベネッセが保有する教育関連の各種データを公開しています。

このリリースに関するお問い合わせ先
株式会社ベネッセコーポレーション　広報・IR 部（坂本、濱野、西沢、十河（そごう））
TEL 042 – 356 - 0657　FAX　042 – 356 – 7301